

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101777		
法人名	医療法人リバーサイド		
事業所名	グランスイートマリー		
所在地	徳島県徳島市川内町富久102-2		
自己評価作成日	平成27年9月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りが、イモとレンコンの畑で、空気のきれいな落ち着いた雰囲気施設の施設です。無理な予定は立てず、入居者の方がご自身の生活をゆったりと過ごして頂ける様に。天気の良い日は近くの公園まで散歩に行ったり、三階建ての建物で二階と三階がグループホーム一階がデイサービスになっているので、デイサービスの利用者さんと一緒に、日舞や、フラダンスの慰問を楽しんだりしています。要介護度3、4の方が少なくないので、入居者一人ひとりにとって負担の少ない、のんびりできる施設であるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

穏やかな田園風景の中に同一法人の四事業所が併設している。事業所は三階建ての二・三階にある。利用者の集う共用空間両面の大きな窓からは明るい光が射し、ゆったりとした時間が流れている。管理者と職員は“目配り、気配り、心配り”の理念のもと、利用者一人ひとりに合ったレクリエーションを実施するなど、細やかな支援で意欲の向上に取り組んでいる。医師や看護師の訪問が多いことは、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、『目配り、気配り、心配り』という理念の下、入居者一人ひとりがその人らしい生活を送る為に、ご本人の意思を尊重し、出来るだけ見守りを重視した介護を実施している。	事業所では、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成している。理念を支援の原点として捉え、日頃の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけたときに、農作業をしている方に挨拶をさせてもらったり、近所に住む方がボランティアに来てくださったりと、少しずつではあるが、近所の方々との交流を始めている。	事業所では、同一法人が運営するサービス事業所の行事に参加している。近隣が農村地域であることなどの理由により、地域と十分な交流を図ることが困難であることなどから、地域住民の参加や協力を得るまでには至っていない。	事業所の有する認知症介護の専門性を活かし、地域へ事業所の役割を伝えたり、認知症の方の理解を得ることができるような機会を設けたりして、地域と事業所がともに協力しあうことのできる関係づくりに向けて取り組まれるよう期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族の面会時やボランティアの来所時に認知症についての説明や、それぞれの方に対する対応について話し、ご家族等の意見に耳を傾けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所における取組や課題についての対応等を説明・報告し、参加者さんからの意見や助言を取り入れ、ボランティアの紹介などの便宜を図ってもらっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。交通手段のない家族には、送迎をするなどして参加を促している。利用者の状況や行事について報告を行い、情報交換を行っている。出席者から出された意向は事業所運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所は、認知症と同時に、精神的な疾患を抱えた方や、貧困等問題を抱えた方が複数入居されているので、市役所の担当者には絶えず状況を報告し、相談に乗ってもらっている。	管理者は、市担当窓口を訪問して各種報告書を提出するなどして、事業所の現状や課題について話し合うようにしている。また、困難事例の発生時には、電話などで連絡をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、入居者の安全と入居者の尊厳をモットーとして研修会を行うとともに、身体を自由を制限する行為が必要な場合は、ご家族、医療機関と相談の上、ご家族の同意の下、行っていきたい。	身体拘束防止マニュアルにもとづいて職員研修を行っている。しかし、利用者の安全確保の理由から、玄関や各ユニットの出入口を施錠している。	施錠という行動抑制と、そのことによって生じる利用者の心理的負担等について、職員間で再整理と共有化を図り、職員間で施錠が常識となることのないように努められたい。また、利用者の自由な暮らしの確保に向け、事業所内部のみならず、地域からも協力を得ることができるよう、取り組まれたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目配り、気配り、心配りという理念の下、入居者さんの立場に立ち、介護を行うとともに、内外の研修に参加できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が、社会福祉士で権利擁護支援を行う組織に所属している。入居者の個別の問題についても、その組織の支援を得て対処を行い、職場においても、権利擁護を学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や計画作成担当者が、書面での説明を心掛け、理解納得してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談については、窓口を設けているが、それ以外でも日頃から、管理者や職員が入居者さんやご家族の話をよく伺い、迅速に対応できるように心がけている。	日頃から、利用者一人ひとりの意見を聞くようにしている。また、家族会を開催したり、家族へ利用者の状況報告を行う際に、行事等の写真を同封したりして、事業所の理解を得るよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループ内でのコミュニケーションを重視し、絶えず話し易い職場であるように心がけている。提案があれば他の職員とも協議し、仕事に反映するようにしている。	日頃から管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にしており、職員の意見を個別に聞くようにしている。職員から出された意見や提案、意向は、代表者にも伝え運営面に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は当事業所が徳島市に置いてどういう位置づけになるか考え、管理者、職員の資質能力を見極め、それぞれが働きやすい様に職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は新人が多く、管理者や計画作成者が基本的な介護を一つ一つ教え、指導し見守りながら、その職員にあった仕事を探し、本人のやりがいがある職場になるように日々努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所に個別研修をお願いしたり、見学に行ったりして、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から時間をかけて、ご本人ご家族の話をよく伺い、不安な気持ちを受け止め、事業所として出来る範囲での支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者や家族に金銭面も含め様々な問題を抱えている方がおられるので、ご本人ご家族とよくお話をしながら関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設に来られる様になった経緯をよく伺い、ご本人の状況をよく観察したうえで、必要なサービスの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、入居者を自分の身内としてお世話するように指導している。このユニットを一つの家庭としてその中で職員、入居者が家族の様に過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡(メール、手紙、電話、訪問時の対応)を密に行う事によって、ご家族にも入居者様の状況を知って頂き、絶えず話し合いを行えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外でも友人との関係が切れないように出来るだけ訪問して頂ける様に心掛けている。	事業所では、家族の協力を得たうえで、利用者一人ひとりの馴染みの人との交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者1人ひとりに担当職員を配置し、職員同意が、担当入居者の様子をよく観察し、互いに情報交換することによって、入居者さんの孤立を防ぐ様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も入院された医療機関に面会に行ったりして、関係を切らないようにしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者1人ひとりが、気兼ねなく自分の思いを話すことが出来る様に、職員は聞き役に徹し、暮らし方の意向に沿う様に努めている。	日頃の利用者との関わりのなかで、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。意思の表出が困難な方には、担当職員を決めるなどの工夫を行って、一人ひとりの意向を把握することができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の中には身寄りがなかったり、過去の事を思い出せない人もおられ、当施設に来る前の生活については全員把握することは難しい。普段の行いや話し方等により出来るだけ把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当者が、入居者の日常をつぶさに観察し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの在り方については、疑問点、問題点があれば、その都度話し合い、そこで出た意見やアイデアは、合議の上、介護計画の作成に役立てている。	介護計画は、本人や家族の意見を尊重したうえで、主治医や関係者間で作成している。定期的に、職員間で介護計画の評価や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をもとに、カンファレンスを行い、入居者にとって何が最善か絶えず、協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	選挙期間中は不在者投票を支援して、入居者さんの政治参加を促し、又、同一グループ内の施設と連携し徳島市立図書館の団体貸し出しの手続きを進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や外出時の挨拶、ボランティアによる慰問の受け入れなど隣接施設と共に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、居宅療養指導にて対応しているが、必要に応じて、ご家族及び医療関係者との話し合いを持ち、他の医療機関への受診も支援する。	契約時の段階で、利用者や家族と話し合い、すべての利用者が協力医療機関を主治医としている。専門医の受診時には、職員が同行するなどして適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問してくれる、協力医療機関の訪問看護師に相談し、医療連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況の急変時には、ご家族、主治医に連絡し、主治医からは現場で行える事についての指示を頂き、入院先に付き添い、日頃の状況と体調変化時の状況を入院する病院に文書で申し送っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃からのご家族との連携を密に行う事によって状況の変化に対して、事業所として出来ることを説明し、医療機関と連携を取りながら、早めに、ご家族との話し合いを行っている。	契約時の段階で、終末期や重度化した場合の事業所の方針等を説明している。利用者の心身状態の変化に応じて再度、関係者間で話し合い連携し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習会を開催したり、日頃から、協力医療機関の指導の下、実践力を身に着けるように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接施設と共に年2回の防災訓練を行い。津波の対策としては、入居者を全員3階に避難してもらうように申し合わせている。	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。隣接事業所が津波災害時の際の避難所指定を受けており、相互の協力関係を構築している。また、災害時に備え物品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんの状況に合わせて、見守りの距離を考え、本人の気持ちを汲んだ対応声掛けを実施している。	職員は、利用者の気持ちが不安定なときや介助が必要なときなど、さりげない声かけや誘導を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事であっても、決めるという瞬間を大切に考え、本人が満足できるように生活していく上での配慮を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居される前の生活をよく伺い、急にグループホームの生活に変えるのではなく、前住んでおられた時の生活習慣を踏襲しながら、本人にとって無理のない生活をして頂ける様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ふさわしい服装をして頂くのが原則であるが、その中でもご自身の気に入ったものを出来るだけ身に付けて頂くと同時に、このシャツの色はこのズボンに似合いますよといった提案をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方にあつた食事形態、スプーンやお箸を用意して、出来るだけ本人が自分で食べて頂く、食事が終わった後、出来る人にはお膳を流し台までもってきていただくようにしている。	同一法人の運営する隣接事業所で調理後、事業所で盛りつけている。利用者は、テーブル拭き等の役割を担っている。利用者と職員は、ともに会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の食習慣、体調を考慮し、食事の形態や摂取方法等、入居者に合った食事、水分等を提供、摂取しやすい様に支援を行っている。体調の変化時には食事の形態を変える等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、自分でできない入居者については、介助によって口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	たとえ便意尿意がはっきりしなくても、立位が不可能な方以外は、トイレでの排泄の習慣をつけるため、トイレに誘導して便器に腰かけてもらってからパット交換を実施している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握するよう努め、利用者の表情等から察知しトイレでの排泄を支援している。また、職員がトイレ誘導などを行う際にはさり気ない声がけを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	廊下での歩行練習をして頂いたり、水分の摂取を勧めたりしている。定期的な排便を促すために、チェック表を付け、排便に至らない場合は、緩下剤を使用したり、浣腸の実施を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望する時間帯の入浴にまでは至っていない。	事業所では、なるべく週2回以上は入浴してもらおうことができるよう支援している。利用者一人ひとりがくつろいで入浴することができるよう、シャワー浴などを取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が以前住んでおられたところにあったタンスや仏壇等を持ってきてもらい、以前とできるだけ変わりのない生活をして頂けるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	精神的な疾患をお持ちの方が多く当施設では、服薬の状況、服薬後の変化をつぶさに観察し、協力病院の医師薬剤師との連携を取りながら、その方に合った処方服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	牛乳パックを切り開いてもらってリサイクルしたり、洗濯物を畳んでもらったりして一部の入居者には役割の分担が出来ているが、ADLのあまり高くない入居者については、まだ役割分担までには至っていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人ひとり、個別の外出を支援するには至っていない。しかし、入居者の誕生日に近何人かの入居者と近くの喫茶店でお茶会をすることは恒例となっている。	天気の良い日には、隣接の事業所の自動販売機を利用したり、近隣へ散歩に出かけたりしている。利用者と職員で、季節の花見や利用者の誕生日に外出したりしている。また、家族とともに、外出や外食へ出かけることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入居者のお金は施設が一括で管理しているが、本人の求めに応じて、職員が買い物の代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に高齢者向けの携帯電話を所有して、家族と連絡を取っている入居者がおられたが、現在は無い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一部が畳敷きでそこに大きなテレビがあり、時代劇などを見に、入居者が集まってくる。空調等にも気を使い出来るだけ、居心地のいい場所であるように心がけている。	共有空間の大きな窓からは、明るい光が差し込んできており、豊かな田園地帯を一望することができる。壁面には、利用者と職員の手作りの作品を掲示したり、居心地良く過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のスペースで過ごす場所は一人ひとり決まっており、その場所にいることが心の安定になっている。入居者同士がトラブルにならないように絶えず見守りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物を置いてもらい、安心して過ごせる場所であるように心がけている。	居室には、利用者の使い慣れた家具や道具を持ちこんでもらっている。仏壇を置く利用者もおり、これまでの生活を続けつつ、居心地の良い空間となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、風呂場、洗濯場の表示は大きく見やすい様に配慮している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、『目配り、気配り、心配り』という理念の下、入居者一人ひとりがその人らしい生活を送る為に、ご本人の意思を尊重し、出来るだけ見守りを重視した介護を実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩に出かけたときに、農作業をしている方に挨拶をさせてもらったり、近所に住む方がボランティアに来てくださったりと、少しずつではあるが、近所の方々との交流を始めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族の面会時やボランティアの来所時に認知症についての説明や、それぞれの方に対する対応について話し、ご家族等の意見に耳を傾けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所における取組や課題についての対応等を説明・報告し、参加者さんからの意見や助言を取り入れ、ボランティアの紹介などの便宜を図ってもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所は、認知症と同時に、精神的な疾患を抱えた方や、貧困等問題を抱えた方が複数入居されているので、市役所の担当者には絶えず状況を報告し、相談に乗ってもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、入居者の安全と入居者の尊厳をモットーとして研修会を行うとともに、身体を自由を制限する行為が必要な場合は、ご家族、医療機関と相談の上、ご家族の同意の下、行っていきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目配り、気配り、心配りという理念の下、入居者さんの立場に立ち、介護を行うとともに、内外の研修に参加できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が、社会福祉士で権利擁護支援を行う組織に所属している。入居者の個別の問題について、その組織の支援を得て対処を行い、職場においても、話し合いを行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や計画作成担当者が、書面での説明を心掛け、理解納得してもらえるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談については、窓口を設けているが、それ以外でも日頃から、管理者や職員が入居者さんやご家族の話をよく伺い、迅速に対応できるように心がけている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループ内でのコミュニケーションを重視し、絶えず話し易い職場であるように心がけている。提案があれば他の職員とも協議し、仕事に反映するようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は当事業所が徳島市に置いてどういう位置づけになるか考え、管理者、職員の資質能力を見極め、それぞれが働きやすい様に職場環境・条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は新人が多く、管理者や計画作成者が基本的な介護を一つ一つ教え、指導し見守りながら、その職員にあった仕事を探し、本人のやりがいがある職場になるように日々努力している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所に個別研修をお願いしたり、見学に行ったりして、サービスの質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から時間をかけて、ご本人ご家族の話をよく伺い、不安な気持ちを受け止め、事業所として出来る範囲での支援を行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者や家族に金銭面も含め様々な問題を抱えている方がおられるので、ご本人ご家族とよくお話をしながら関係づくりを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設に来られる様になった経緯をよく伺い、ご本人の状況をよく観察したうえで、必要なサービスの見極めを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、入居者を自分の身内としてお世話するように指導している。このユニットを一つの家庭としてその中で職員、入居者が家族の様に過ごせるように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡(メール、手紙、電話、訪問時の対応)を密に行う事によって、ご家族にも入居者様の状況を知って頂き、絶えず話し合いを行えるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外でも友人との関係が切れないうように出来るだけ訪問して頂ける様に心掛けている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者1人ひとりを複数の職員がをよく観察し、互いに情報交換することによって、入居者さんの孤立を防ぐ様に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も入院された医療機関に面会に行ったりして、関係を切らないようにしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者1人ひとりが、気兼ねなく自分の思いを話すことが出来る様に、職員は聞き役に徹し、暮らし方の意向に沿う様に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の中には身寄りがなかったり、過去の事を思い出せない人もおられ、当施設に来る前の生活については全員把握することは難しい。普段の行いや話し方等により出来るだけ把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当者が、入居者の日常をつぶさに観察し、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの在り方については、疑問点、問題点があれば、その都度話し合い、そこで出た意見やアイデアは、合議の上、介護計画の作成に役立てている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をもとに、カンファレンスを行い、入居者にとって何が最善か絶えず、協議している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	選挙期間中は不在者投票を支援して、入居者さんの政治参加を促し、又、同一グループ内の施設と連携し徳島市立図書館の団体貸し出しの手続きを進めている。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や外出時の挨拶、ボランティアによる慰問の受け入れなど隣接施設と共に取り組んでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、居宅療養指導にて対応しているが、必要に応じて、ご家族及び医療関係者との話し合いを持ち、他の医療機関への受診も支援する。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問してくれる、協力医療機関の訪問看護師に相談し、医療連携を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況の急変時には、ご家族、主治医に連絡し、主治医からは現場で行える事についての指示を頂き、入院先に付き添い、日頃の状況と体調変化時の状況を入院する病院に文書で申し送っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃からのご家族との連携を密に行う事によって状況の変化に対して、事業所として出来ることを説明し、医療機関と連携を取りながら、早めに、ご家族との話し合いを行っている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習会を開催したり、日頃から、協力医療機関の指導の下、実践力を身に着けるように努力している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接施設と共に年2回の防災訓練を行い。津波の対策としては、入居者を全員3階に避難してもらうように申し合わせている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	Bユニットには徳に精神的な疾患を抱えたが多いので、傾聴に徹し、入居者の心の安定を図るとともに、入居者ひとり一人のプライバシーを損ねない様に対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	前の施設で自己決定をする機会に恵まれなかった入居者さんがおられ、食事にお出しするおにぎりの形等小さなことに異常なこだわりがある。それを否定せずに出るだけ本人の意に沿う様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居される前の生活をよく伺い、急にグループホームの生活に変えるのではなく、前住んでおられた時の生活習慣を踏襲しながら、本人にとって無理のない生活をして頂ける様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ふさわしい服装をして頂くのが原則であるが、その中でもご自身の気に入ったものを出来るだけ身に付けて頂くと同時に、このシャツの色はこのズボンに似合いますよといった提案をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方にあつた食事形態、スプーンやお箸を用意して、出来るだけ本人が自分で食べて頂く、食事が終わった後、出来る人にはお膳を流し台までもってきていただくようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の食習慣、体調を考慮し、食事の形態や摂取方法等、入居者に合った食事、水分等を提供、摂取しやすい様に支援を行っている。体調の変化時には食事の形態を変える等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に入れ歯を預かり、職員が管理している。入れ歯のない入居者には食後の歯磨きを促している。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	たとえ便意尿意がはっきりしなくても、立位が不可能な方以外は、トイレでの排泄の習慣をつけるため、トイレに誘導して便器に腰かけてもらってからパット交換を実施している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	廊下での歩行練習をして頂いたり、水分の摂取を勧めたりしている。定期的な排便を促すために、チェック表を付け、排便に至らない場合は、緩下剤を使用したり、浣腸の実施を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望する時間帯の入浴にまでは至っていない。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が以前住んでおられたところにあつたタンス等を持ってきてもらい、以前とできるだけ変わりのない生活をして頂けるように工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	精神的な疾患をお持ちの方が多い当施設では、服薬の状況、服薬後の変化をつぶさに観察し、協力病院の医師薬剤師との連携を取りながら、その方に合った処方服薬支援を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆を拭いてもらったり、洗濯物を畳んでもらったりして一部の入居者には役割の分担が出来ているが、ADLのあまり高くない入居者については、まだ役割分担までには至っていない。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人ひとり、個別の外出を支援するには至っていない。しかし、入居者の誕生日に近何人かの入居者と近くの喫茶店でお茶会をすることは恒例となっている。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入居者のお金は施設が一括で管理しているが、本人の求めに応じて、職員が買い物の代行を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に高齢者向けの携帯電話を所有して、家族と連絡を取っている入居者がおられたが、現在ははない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一部が畳敷きでそこに大きなテレビがあり、時代劇などを見に、入居者が集まってくる。空調等にも気を使い出来るだけ、居心地のいい場所であるように心がけている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のスペースで過ごす場所は一人ひとり決まっており、その場所にいることが心の安定になっている。入居者同士がトラブルにならないように絶えず見守りを行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物を置いてもらい、安心して過ごせる場所であるように心がけている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、風呂場、洗濯場の表示は大きく見やすい様に配慮している。			